

3・現状と課題

春日学区では2005年度（平成17年度）まで、学区内の各種団体に構成する「春日学区各種団体連絡協議会」という組織で、学区内の連絡調整や活動について情報を共有しながら活動してきた。

一方、福山市においては、少子高齢化や国際化の進展、環境問題、さらに犯罪や災害など地域社会を取り巻く環境が大きく変化し、身近な課題を解決し、「誰もが住んでよかったと思えるまち」の実現に向け、市民と行政との協働によるまちづくりを進めていくことが重要との認識の下、「福山市協働のまちづくり行動計画」を定めた。

春日学区においても、住民主体の地域づくりに向けて、協働のまちづくりを推進するため、地域住民による自主的・主体的な活動により地域の課題解決や地域の活性化を図ることを目的に、2006年度（平成18年度）より、「春日学区各種団体連絡協議会」を改組し、「春日学区まちづくり推進委員会」を発足させた。

以降、まちづくり推進委員会に部会を設置するなど、組織の更なる活性化にむけて活動を強化しているところである。



一方、少子高齢化の進行や住民の価値観の多様化等、各单位自治会・町内会での活動にも変化が起きつつあり、行事の参加等においても参加者が固定化の傾向があるなど、今後のまちづくり活動に大きな影響を与える課題も出てきている。更に、昨今の自然災害による防災対策等、自助・公助・共助の観点からも益々地域の中での日々のつながりが重要になってきている。

今後、高齢化・人口減少の中において、どのようにしたら“活力”ある地域を“持続”できるか、組織の再編等も含めて、継続・短期・中期の事業の在り方等を、学区民全体で共有していくことが課題である。